

kanagawa ARTS PRESS

神奈川芸術プレス Vol.143

8 | 9
2018



CREATOR'S VOICE 162

山田和樹

横浜能楽堂で聴く 伝統芸能と合唱の出会い

©青柳聡

マリウス・プティパ生誕200年記念 東京バレエ団〈プティパ・ガラ〉
ベトナムからルーン・プロダクションが再び! 「The Mist」「A O SHOW」
オルガン音楽で体験する色彩の世界 近藤 岳 オルガンリサイタル

隔月刊:奇数月15日発行

横浜能楽堂という特別な空間に、伝統芸能をベースにした合唱を響かせるという初挑戦。私自身、どんな音が生まれるのか、楽しみでしかたがありません。

音楽堂アフタヌーン・コンサート
山田和樹指揮 東京混声合唱団 特別演奏会

横浜能楽堂で聴く 伝統芸能と合唱の出会い

神奈川県立音楽堂出張公演

山田和樹

指揮者



「今、もっとも多忙な指揮者」といわれる山田和樹。平成28年度から5年間のシリーズとして始まった「音楽堂アフタヌーン・コンサート 山田和樹指揮 東京混声合唱団特別演奏会」の第3回は、「伝統芸能と合唱の出会い」というテーマのもと、休館中の神奈川県立音楽堂に代わって横浜能楽堂で開かれます。

横浜能楽堂に響きわたる

柴田南雄のシアターピース

——神奈川県立音楽堂は平成30年の4月から改修工事のために休館しています。代わりの場所として横浜能楽堂を選んだのは、山田さんだとうかがいました。

県立音楽堂はとても素晴らしい木のホールです。そこで始まったシリーズをコンクリートの空間に移したくなかった。そこで、同じように木でできた能楽堂がいいな、と思ったんです。

2014年にスイス・ロマンダ管弦楽団の来日公演を指揮したんですが、交流

イベントとしてスイス・ロマンダのメンバーが室内楽の演奏会を横浜能楽堂で行いました。その時、能舞台で西洋音楽を演奏するというのはなかなか面白いな、と感じました。まず、能楽堂は通常のコンサートホールと違って、舞台空間が左右対称ではない。その形の面白さを活かしたコンサートはできないかと考えた時、伝統芸能と合唱を結びつけるという発想が生まれました。

——日本古来の能楽堂という場所だからこそ、日本の伝統芸能と西洋音楽の合唱という芸術を結びつけてみようと思われただけですね。

そこで、東京混声合唱団のレパートリーにある柴田南雄のシアターピースを2曲取り上げることにしました。

『追分節者』は、長野県碓氷峠に伝わる追分節をもとにした作品で、1973年に東混の委嘱により生まれました。追分節は馬子さんが馬を引きながら歌う民謡なので、この作品でも舞台から客席を練り歩きながら歌います。能舞台というの

山田和樹 Kazuki Yamada

2009年第51回ザンソン国際指揮者コンクールで優勝。以降、ヨーロッパを中心に破竹の勢いで活動の場を広げている。これまでに、ドレスデン国立歌劇場管、パリ管、フィルハーモニア管、ベルリン放響、バーミンガム市響、サンクト・フィル、チェコ・フィル、エーテボリ響など各地の主要オーケストラでの客演を重ねる。昨年はベルリン・コーミッシェ・オーパーにもデビューを果たした。メディアへの出演も多く、音楽を広く深く愉しもうとする姿勢は多くの共感を集めている。ベルリン在住。





©青柳 聡

は神聖なものなので、上り下りをしてはいけないということで、今回は別の新しい方法を考えています。

『萬歳流し』は、秋田県横手地方に伝わる横手萬歳をもとにしています。萬歳は家々を回って歌や踊りを披露する「門付け芸」で、日本各地に伝わっています。重要無形文化財に指定された地域のものもありますが、一方で継承者がほとんどいないという問題も抱えています。そうした貴重な伝統芸能をこの能楽堂で演奏することには、大きな意味があると思っています。これも『追分節考』同様、客席を使って演奏する予定です。

——『追分節考』には尺八も登場しますね。

東混ではずっと長く、関一郎さんに演奏をしていただいています。歩きながら尺八を吹く、というのはとてもない技術が必要で、誰にでもできるわけではないそうです。今回は、『追分節考』における関さんの経験や技術を次の世代に伝えていくという意味も含めて、新たに藤原道山さんに加わっていただけることになりました。実は『追分節考』の尺八は1本と決められているわけではないので、今回は2本の尺八によるスペシャル・バージョンをお届けできると思います。

異なる文化の伝統が会うとき

——その他のプログラムについてもうかがいたいですか。

まず、リーク作曲の『コンタリラ（滝の精）』ですが、これはオーストラリアの原住民族であるアボリジニに伝わる伝統音楽を題材にした作品で、同じく動きのあるシアターピースです。伝統音楽と結びつけたシアターピースということで、柴田作品と共通するものがあるので選びました。

次に、ヴィラ・ロボス作曲『ブラジル風バツハ第9番』。『ブラジル風バツハ』は全部で9曲あり、いずれもブラジルの民俗音楽とバツハの作曲様式を融合させるという意図のもとに生み出されました。つまり、もともとの作品がすでに「伝統芸能と西洋音楽とのハイブリッド」になっているわけです。そこにもう一つ、日本の伝統芸術の殿堂である能楽堂という要素をプラスしたらどうなるのか。三つの異なる文化が融合する新しい音楽空間が生まれるのではないかと期待しています。

ちなみに第9番は無伴奏合唱のために書かれた曲なのですが、非常に難しくこのバージョンではなかなか演奏されず、ずっと弦楽合奏で演奏されてきまし



神奈川県立音楽堂 出張公演

音楽堂アフタヌーン・コンサート 山田和樹指揮 東京混声合唱団 特別演奏会

横浜能楽堂で聴く 伝統芸能と合唱の出会い

2018年8月23日(木) 14:00/19:00 横浜能楽堂

出演:山田和樹(指揮) 関 一郎(尺八) 藤原道山(尺八) 東京混声合唱団

柴田南雄:追分節考~シアターピース~ (1973年東京混声合唱団委嘱作品)

尺八/関 一郎 藤原道山

柴田南雄:萬歳流し~秋田県横手萬歳によるシアターピース~ (1975年)

S・リーグ:コンダリラ(滝の精)

合唱によるフリージャズ

E・ヴィラ=ロボス:ブラジル風パツハ第9番 他

全席指定 一般3500円 学生(24歳以下)2500円

www.artspress.jp

WEB
+a!このマークの記事
にはWEB版だけの
+αコンテンツも!

合唱の指揮をするということ

——最後に『合唱によるフリージャズ』という曲があります。

種明かしすると、5年計画の『音楽堂アフタヌーン・コンサート』シリーズの中で、来年は『ジャズ』をテーマにしたいと思っています。そこで、来年への予告的な意味も兼ねて、合唱でフリージャズに挑戦します。これは合唱界広しといえども、今まで前例がなかったことだと思います。去年、東混の少人数のアンサンブルでフリージャズに初めて挑戦したんですが、これがなかなかよくて、それじゃあ合唱団全員でやろうということになりました。当日は、テーマもメロディもまったく決めず、完全な即興です。だから何が起るのか、まったくわかりません。もしかしたら指揮者がいらなくなってしまうかも(笑)。

——オーケストラやオペラも指揮される山田さんですが、合唱を指揮する時には

何か違いがあるのでしょうか。

僕は幼い頃から合唱団に所属していて、東京藝大時代にはアマチュアの合唱グループの指揮をしていました。だから僕にとっては、合唱もオーケストラも両方指揮するということはとても自然なことです。そして指揮のやり方、ということに関しては、オケも合唱もまったく変わりはありません。ただ、合唱というのは声という一つの楽器でできていますから、まとめやすいというところはあるかもしれません。一方で、同じ楽器なので音色の違いを出すのは難しい。また、人間の体が楽器なので、ちょっとしたことで音程やハーモニーが微妙に変化してしまうという繊細な一面もあります。

——うかがっていると、山田さんは合唱がとてもお好きなんだなあ、という気がします。

とても楽しいですよ。人が「歌おう」とするとき、そこには願いがあり、祈りがあり、喜びがあるわけです。つまり、歌を合わせるということはとてもポジティブな行為なんです。だから、合唱は健康的だし、みんな笑顔になります。

合唱というのはとても「救い」に近い行為ではないでしょうか。おそらく人類は言葉を持つ前から「歌う」という行為をし

ていたはずですよ。それは、今私たちが考える「歌」よりは「叫び」に近いものだったかもしれません。しかし、人は何かを願う時に声を合わせていただろう、という確信があります。つまり合唱は、人間の根底にある魂と結びついた芸術なんです。

my hall myself

私にとっての神奈川県立音楽堂

私の祖母が年に数回、県立音楽堂で行われる三味線の発表会に出演していて、子供心にも「県立音楽堂の舞台に立つ」ということはすごいことなんだ」と感じていました。そんな私が初めて県立音楽堂の舞台に立ったのは2001年3月、自分が組織したTOMATOフィルハーモニー管弦楽団(現・横浜シンフォニエッタ)の演奏会を開いたとき。以来、県立音楽堂の木の温かみや響きの美しさに魅了され続けています。またこのホールはスタッフさんがとても温かく、これまでもとても親身に支え続けてくださっています。全国的にも貴重な木のホールをこれからぜひ守っていかたい。

取材・文:室田尚子

WEB
+a!

東京バレエ団〈プティパ・ガラ〉

2018年9月1日(土) 14:00 〈大ホール〉

振付:マリウス・プティパ

「ジョコンダ」 出演:柿崎佑奈 ブラウリオ・アルバレス 他

「アルレキナーダ」 出演:足立真里亜 樋口祐輝

「エスメラルダ」 出演:伝田陽美 柄本弾 他

「ラ・バヤデール」より「影の王国」

出演:川島麻実子 秋元康臣 他

「騎兵隊の休息」 出演:秋山 瑛 井福俊太郎

「タリスマン」 出演:沖香菜子 宮川新大

「ライモンダ」より 出演:上野水香 柄本弾 他

指揮:ワレリー・オブジャニコフ

演奏:神奈川フィルハーモニー管弦楽団

全席指定 S 10000円 Sペア19000円 A 7000円

B 5000円 C 3000円 学生(24歳以下・枚数限定)2000円

同日開催プレクチャー

「プティパ〜クラシック・バレエ黄金時代の幕開け」

9月1日(土) 12:30~13:30 〈大会議室〉

元ポリシヨイ・バレエのプリンシパルで、本公演の指導にもあ

たっているニコライ・フョードロフ氏によるプレクチャーを

開催。プティパの生涯やその作品の魅力に迫ります。

申込方法等、詳細は神奈川県民ホールHPをご覧ください。

お問合せ:神奈川県民ホール事業課プティパ・プレクチャー係

TEL 045-633-2028 (平日9:00~17:00)



「ラ・バヤデール」より「影の王国」(川島麻実子、秋元康臣)

©Bernd Weissbrod

FOCUS

東京バレエ団〈プティパ・ガラ〉

神奈川県民ホール



クラシック・バレエの父、マリウス・プティパの生誕200年記念ガラ!



「ライモンダ」より(上野水香、柄本弾) ©Nobuhiko Hikiji

「眠れる森の美女」「ドン・キホーテ」「ラ・バヤデール」など、今なお愛される古典バレエの傑作を数多く生み出したクラシック・バレエの父、マリウス・プティパ。今年、生誕200年を迎えた偉大な振付家に世界が注目し、プティパにまつわる様々な公演が開催される中、神奈川県民ホールでも選りすぐりのプティパ作品を詰め込んだスペシャルなバレエ・ガラをお届けします。

アミルカレ・ポンキエツリ作曲のオペラ「ジョコンダ」の中で上演されるバレエ「時の踊り」は、壮麗なコール・ド・バレエが印象的な作品。その美しい音楽は、ドイツ映画「ファンタジア」でも使用されています。コンクールでもよく踊られる「アルレキナーダ」「エスメラルダ」「タリスマン」からは、バ・ド・ドゥを、高度

な技巧のみならず、プティパが描いた役柄のキャラクターや深い感情表現も見どころです。「騎兵隊の休息」は、農村を舞台に繰り広げられるラブコメディ。ラストには盛大な宴が開かれ、様々なダンスやグラン・バ・ド・ドゥで盛り上がりします。

そして、東京バレエ団の斎藤友佳理芸術監督が、緑の深い県民ホールのために特別に選んだのは、「ラ・バヤデール」より「影の王国」と「ライモンダ」です。幻想的な月明かりのもと踊られる「ラ・バヤデール」の「影の王国」は、バレエ・ブーラン(白いバレエ)の美の極致ともいわれる名場面。「ライモンダ」の婚礼の場面で踊られるグラン・バ・ド・ドゥは、物語のラストを飾るのに相応しく、豪華で盛大な踊りです。本作では、県民ホール公演のために新たに作られたという衣裳にも注目を。

音楽は、ワレリー・オブジャニコフの指揮と、神奈川フィルハーモニー管弦楽団による生演奏。東京バレエ団のダンサーたちが、オーケストラの演奏で華やかに舞い踊ります。

巨匠プティパの珠玉の7作品を一挙に上演する特別なガラ。クラシック・バレエの礎を築き、時を超え愛され続けるプティパの世界を、存分に堪能ください。



青島広志

©Gakken Plus



福井 敬



神奈川県民ホール・オペラ・シリーズ
「アイダ」がもっと楽しくなる！
多彩なイベント

神奈川県民ホール

この秋、ローマ歌劇場の協力を得て新制作するオペラ「アイダ」。その聴きどころや魅力を先取りする多彩なイベントが開催されます。

特別講座

福井敬と語る「アイダ」

日本を代表するテノール歌手で10月20日の本公演にラダメス役で出演する福井敬さんをトークゲストにお迎えし、音楽評論家の加藤浩子さんとの対談形式で「アイダ」の魅力徹底解剖！ 充実のプレレクチャーにぜひご参加ください。

バルマ王立歌劇場ライブビュー

「アイダ」上映会

イタリアオペラの聖地、バルマ王立歌劇場で2012年に上演された「アイダ」の圧倒的な舞台をハイビジョン映像で上映！

グランドオペラ共同制作「アイダ」特別講座

福井 敬と語る「アイダ」～10月の公演に向けて

2018年8月19日(日) 14:00 <大会議室>

講師:加藤浩子(音楽評論家)

トークゲスト:福井 敬(テノール)

全席自由1000円

バルマ王立歌劇場ライブビュー

「アイダ」上映会

2018年8月25日(土) ①10:30 ②14:00 <小ホール>

前売2500円 当日2800円

楽画会 03-3498-2508 (平日9:30~17:30)

青島広志のたのしい名作オペラ講座

オペラ「アイダ」の魅力

2018年9月29日(土) 14:00 <小ホール>

出演:青島広志(お話・ピアノ) 津山 恵(ソプラノ)

磯地美樹(メソソプラノ) 澤田浩一(テノール)

ヴェルディ:オペラ「アイダ」より

清きアイダ(ラダメス)/勝つて還れ(アイダ)/あなたの

眼差しには(アムネリス・ラダメス)/二人の上に平安が(ラダメス・

アイダ・アムネリス)/凱旋行進曲(ピアノ) 他

全席指定 一般2000円 学生(24歳以下・枚数限定)1500円

音楽のおくりもの

未来に羽ばたくオペラ歌手たちによる

「アイダ」コンサート(アンダースタディによる)

2018年10月12日(金) 14:00 <小ホール>

全席指定500円 休憩なし60分 ©8/18(土)発売

詳細は神奈川県民ホールHPで発表します。

*アンダースタディ:オペラの稽古やリハーサルに参加し、練習代役として控えながら勉強するキャストのこと。神奈川県民ホールでは、オペラ公演のアンダースタディや制作インターンを公募し、人材育成に取り組んでいます。



©Silvia Lelli / TOR

2018年9月16日(日) 15:00 <大ホール>

原作:アベ・プレヴォー 作曲:ジャコモ・ブッチーニ 演出:キアラ・ムーティ

指揮:ドナート・レンツェッティ

出演:クリスティーネ・オポライス グレゴリー・クンデ アレッサンドロ・オルongo 他

全席指定 S 54000円 A 47000円 B 40000円

C 33000円 D 26000円 学生8000円 ※E、Fは完売

NBSチケットセンター 03-3791-8888 (平日10:00~18:00、土10:00~13:00)



ローマ歌劇場「マノン・レスコー」

神奈川県民ホール

魔性の美少女マノンと騎士デ・グリューの悲恋をえがいた「マノン・レスコー」。物語に甘美なメロディを吹き込んだブッチーニの名作は意外なことに上演の機会が少なく、海外の一流歌劇場による上演はなんと32年ぶり！

今回主役マノンを歌うのは美しき歌姫クリスティーネ・オポライス。世界中で活躍するトップ歌手が、神奈川県民ホールでオペラファン待望の日本デビューを飾ります！ 舞台機構が一新された大ホールでリニューアル後初となる海外歌劇場公演、オペラ好きにとつての2018年の1本はこれで決まりです！



「The Mist」公演より

ルーン・プロダクション
ザ・ミスト アー・オー・シヨ
「The Mist」「A O SHOW」

KAAT神奈川芸術劇場 他

この秋、神奈川でベトナムに会いに行く！
県内4都市でツアー

今年2月に「A O SHOW」(アー・オー・シヨ)で日本初上陸、3日間で2千人以上を動員したベトナムのパフォーミング・アート・カンパニー、ルーン・プロダクションが、再び神奈川に上陸します。

2回目の来日となるKAAT神奈川芸術劇場では、秋の「KAAT DANCE SERIES 2018」「Dacne Dance Dance @ YOKOHAMA 2018」の時期に合わせ、カンパニーの中でもダンス要素の強い作品「The Mist」(ザ・ミスト)を上演します。

そして、2月に横浜で好評だった「A O SHOW」も再び来日。今回は横浜を飛び越え、小田原・横須賀・大和の県内3都市でのツアーを展開します。

世界で大評判、ベトナムの新しいサーカス！

ルーン・プロダクションは、ベトナムが生んだ、世界を魅了するパフォーミング・アート・カンパニー。制作・スタッフワーク・パフォーマンス・演奏をすべてベトナム人が担当するベトナムオリジナルの集団です。近年はフランスをはじめ、世界各地を巡演して高評価を得ており、ベトナム発エンターテインメントとして絶賛されています。セリフはなく、鍛え上げられた肉体によるアクロバットやダ

「A O SHOW」公演より

©Nguyen The Duong



ルーン・プロダクション

「The Mist」

横浜公演:2018年10月25日(木)~10月28日(日) KAAT神奈川芸術劇場〈ホール〉

全席指定 S 4500円 A 3500円 学生(高校生~大学院生) S 2000円 A 1500円 ほか割引チケットあり

「A O SHOW」

小田原公演:2018年11月8日(木) 小田原市民会館〈大ホール〉

横須賀公演:2018年11月10日(土) よこすか芸術劇場〈大劇場〉

大和公演:2018年11月17日(土) 大和市文化創造拠点シリウス1階 芸術文化ホール〈メインホール〉

※料金等は会場によって異なります。詳しくはチケットかながわ/各会場HP等でご確認ください。

◎この他、各公演地でワークショップ等の関連イベントの開催も予定しています。

◎全会場のチケットをチケットかながわで発売中。



「The Mist」公演より

ンス、歌を通して、ベトナムの美しい情景を浮かびあがらせています。また、竹や籠・米などの日用品を使ってベトナムの暮らしを表現し、いくつものシーンを繋いで物語を構成します。

時にダイナミックに、時に静謐に、牙えわたる演出と振り付け、約20種類のベトナム楽器からなる音楽の生演奏が、見る人をベトナムへと誘います。

9月に県庁周辺で開催される「ベトナム・フェスタ in 神奈川」など、ベトナムとの交流も活発になる中、子どもから大人まで世代を超えて楽しめるベトナム発最大のエンターテインメント、ルーン・プロダクション公演。ベトナムのエッセンスを凝縮した2作品を是非お楽しみください。

「The Mist」(横浜)
穂の国ベトナム、
朝霧の奥に広がる黄金の世界
ベトナム人の生命の源「米」をテーマに、農村の生活を描いたダンス作品です。山々から田園に立ち込めてくる朝霧の中、稲穂の根が地中深くに育ち、大地からの恵みを吸収して豊かに実ることを夢見る農夫たちの願いが、独特の身体表現を通して語られます。トレーニングを重ねたダンサーたちのしなやかさ、表現力が、農村の暮らし、若者たちの恋、神々への祈りを描きます。伝統音楽の演奏も必聴。観客が一体となる終幕も見事です。

「A O SHOW」(小田原・横須賀・大和)
村から街へ、移りゆくベトナム
変わらぬ魂

「A O SHOW」の「A O」は、ベトナム語の「村(Lang)」と「街(Pho)」の母音に由来しています。テーマは、ベトナム南部の「農村と都市の暮らし」。ベトナムの素朴な生活や文化、今と昔をアクロバティックに表現します。穏やかな農村の情景と変わりゆく都市の様子が、時にシリアスに時にコミカルに描かれます。伝統の竹細工を駆使したパフォーマンスがみどころ。約20種類のベトナムの伝統楽器を操る5人のミュージシャンの妙技も必見です。

「A O SHOW」公演より

©Dragon Images



「マグネット・カルチャー(マグカル)」とは



神奈川県では、文化芸術の魅力で人を引きつけ、地域のにぎわいをつくり出す、マグネット・カルチャー略してマグカルを取組を推進しています。さらに、ラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、市町村や関係団体と連携しながら神奈川の文化プログラムを推進しています。

ルーン・プロダクション招聘公演は、マグカルがお勧めするベトナムのサーカスを広く県民のみなさまに楽しんで頂くため、県内4つのホールが協力して行う特別事業です。



©Hiroshi Togo

チケット予約は

チケットかながわ

WEB予約(24時間)

Tel. 0570-015-415 (10:00~18:00)  

詳細・最新情報は

 神奈川県民ホール



近藤 岳 オルガンリサイタル — 待ち望む時、喜びの時 —

神奈川県民ホール

オルガン音楽で体験する色彩の世界!

FOCUS



近藤 岳

©青柳 聡

神奈川県民ホール小ホールには、1975年、開館にあわせて日本の公共ホールで初めて設置されたドイツ・クラウス社製のオルガンがあります。オルガンと客席の距離が近く、間近で演奏を楽しむことができるのが最大の魅力です。9月22日には3月までミュージアザ川崎シンフォニーホールのオルガニストを務め、オルガニストのみならず作曲家としても

抜きん出た活躍を続ける近藤岳が「待ち望む時、喜びの時」と題したリサイタルを行います。県民ホールでは10年ぶり、満を持してのリサイタルです。教会歴の待降節から降誕節までをなぞるような構成になっており、フランス音楽に精通した近藤岳によるメシアン「主の降誕」は必聴。そのほかバッハのオルガン音楽の中でも最高傑作といわれる「パッサカリア」、自作自演による新作初演など聴きどころ満載のプログラムです。ドイツ・クライス社製のオルガンから、どのようにフランス的な色彩感溢れる音楽・音色を紡ぎだすのか、近藤岳の新たな挑戦にご期待ください。

2018年9月22日(土) 15:00 (小ホール)
S.シャイト:「来ませ、異邦人の贖い主よ」SS WV149
N.ブルーンズ:「いざ来ませ、異邦人の救い主よ」
A.ハイラー:「いざ来ませ、異邦人の救い主よ」
J.S.バッハ:パッサカリアハ短調 BWV582
近藤 岳:新作(神奈川県民ホール委嘱作品・初演)
O.メシアン:「主の降誕」より
全席指定 一般3000円 ベア(一般)5500円
学生(24歳以下・枚数限定)2000円



1期展(平面立体)ギャラリートーク



2017年 展覧会の様子

第54回 神奈川県美術展

神奈川県民ホール

全国から多くの力作が集まる神奈川県美術展。各部門の入賞・入選作品による展覧会を開催します。会期中には審査員によるギャラリートークもあり、当館の大規模なギャラリーに展示される多彩な作品をぜひご覧ください!

〈ギャラリー〉 入場無料

1期展 平面立体・中高生特別企画展 2018年9月5日(水)~16日(日)

*ギャラリートーク 9/8(土) 10:30~11:30

2期展 工芸・書・写真・中高生特別企画展 2018年9月19日(水)~30日(日)

*ギャラリートーク 9/22(土) 10:30~11:30(書) 13:30~14:30(工芸) 15:30~16:30(写真)

巡回展 厚木市文化会館展示室 2018年10月3日(水)~13日(土) ※10/9(火)、10(水)は休み

www.kanakengallery.com/



知れば、
知るほど、
好きになる

演劇の小箱

能舞台の不思議



横浜能楽堂本舞台

初めて能楽堂へ行き、ロビーから「見所」と呼ばれる客席に足を踏み入れた時、不思議に思うことがあるはず。室内なのに、能舞台に屋根が架かっているからだ。まさに「屋上屋」という言葉、そのものだ。

なぜ、このようになっていくかといえば、能舞台は、明治の中期、西洋式の劇場建築が入ってくるまでは、独立した建物として野外に建てていたからだ。

舞台の回りには、50センチほどの幅で白い小石が敷き詰められた「白洲」と呼ばれる空間がある。これも屋外に建てていた時の名残り。降り注ぐ日の光を反射させ、能面を下から

照らす効果があるとされた。正面には、「キザハシ」という短い階段が付いている。これは、終わった後、能を取り仕切る役人が、主人の使者として、役者に褒美を渡す際などに使われた。しかし、今では、褒美を渡す人もいないから使われなくなっている。

使われないのに残っている所が、もう一つある。向って右手の舞台奥にある「貴人口」。文字通り、かつては高貴な人が舞台上がる時などに使ったとされる。

能舞台を象徴するのが、正面奥の羽目板に描かれている松。江戸時代までは、公式の能舞台に描かれるのは、松だけと決まっていた。これは、

能の原点といえる曲「翁」が、神事芸能であることに由来する。かつて日本では、松に神が降臨すると考えられていた。能舞台が、現在のようになり形になった時、松を描くようになったが、それでは神に対して、お尻を向けて演じることになる。それは失礼だと、あくまでも鏡に映した松だとして、その方便として「鏡板」と名付けられた。

能舞台は、神聖な場。そのため清浄とされる白の足袋を履くのが倅い。用があってスタッフが上がる時もだ。能舞台には、700年に及ぶ能の歴史が詰まっている。

文・中村雅之(横浜能楽堂館長)

楽器ミュージアム

ティンパニ

ティンパニはクラシック音楽で最も重要な打楽器。大釜のような金属製の半球の上に皮を張り、脚で固定して、2本のバチで叩きます。オーケストラの一番奥に配置され、リズムと低音を担って曲構成の柱を担うため、オーケストラ奏者は前方の指揮者を目で追うと同時に後方のティンパニを聴きとることがとても大切になります。

え？ 打楽器がベースを担う?! 実はこの楽器、太鼓と違って音の高さを出すことができるのです。打楽器は皮を叩いた振動から音を出しますが、筒の上下に皮を張る太鼓では、この振動が上下の皮に反射合って複雑に変化するためピッチが定まり

ません。しかしティンパニでは釜の中に空気を閉じ込められるので、規則的な振動となりピッチがはっきりします。

ティンパニの先祖は中近東で馬の両脇に吊るした軍楽太鼓。ヨーロッパに伝えられ17世紀にはオーケストラの仲間入りをしました。当時から皮を固定するネジで張り方を調整してピッチを調整できた優れたもののティンパニを多くの作曲家たちが重用しました。とはいえ演奏しながらねじを回すのは至難の業。そこで、19～20世紀にはハンドルやペダルで瞬時にピッチを変えるしくみが考案されました。

曲にもよりますが、今日では通

標準タイプは、皮の直径が32インチ、29インチ、26インチ、23インチ、20インチの5サイズ。それぞれほぼ1オクターブ程度の音域を持つ



常、大きさの異なるティンパニを4台並べて演奏します。ちなみにドイツでは伝統的に、奏者の右側に低い音が出る大きいサイズを置き左に向かってより小さく高い音の出る順にティンパニを配置しますが、アメリカや日本ではその反対で左側ほど低い音になる順で配置します。オーケストラの演奏会の際は、ぜひティンパニの配置にもご注目を。



イラスト：遠藤裕喜奈

マリウス・プティパ 「ドン・キホーテ」

1818年、クラシックバレエの父と呼ばれるマリウス・プティパは、フランスのマルセイユで振付師兼ダンサーの父と女優の母との間に生まれました。その後一家はベルギーのブリュッセルで12年間過ごしますが、ベルギー革命の影響でフランス、アメリカなどを点々とします。

1843年、プティパに転機が訪れます。スペインのマドリッドの王立劇場に招かれたのです。ここでプティパは経済的にも芸術的にも充足を得ます。休暇の間も休むことなく、仲間たちと地方を巡業し、フランス人ダンサーによるフラメンコは人々を熱狂させました。

当時、王立劇場のボックス席を年間予約している貴婦人と若く美しい娘がいました。そして、運命にいざなわれ、プティパとその娘は恋に落ちます。公演の後、彼女の部屋のバルコニーにスカーフがかかっていたら、それが中に入っている合図でした。ある夜プティパはいつものようにスカーフを確認し壁を登り始めます。その時でした。暗闇の中、背後から突然、一人の男が襲ってきたのです。男はフランス大使の秘書官リオネル・ド・

シャブリヤン侯爵。彼は娘の母親の恋人で、プティパを恋敵と勘違いしたのです。プティパは彼の卑怯な行いを非難し、二人は決闘することとなります。

結果はプティパの銃弾が公爵の下あごの骨を砕き勝利となります。噂はすぐに街中に広がり、翌日の切符はすぐに売り切れの大盛況。しかし、これがもってプティパはスペインを去らねばなりません。

1847年フランスに戻っていたプティパにロシアのサンクトペテルブルクのボリショイ劇場からの誘いが届きます。1869年、プティパは同劇場の首席バレエ・マスター*に就任。同年、愛するスペインの民俗舞踊を取り入れた「ドン・キホーテ」を発表します。この時からプティパの、そしてクラシック・バレエの黄金時代が始まるのです。

*バレエ・マスター：バレエ団で演目の上演の責任をもち、新しい作品の振付も行う舞踊監督。

マリウス・プティパ Marius Petipa (1818～1910)

帝政ロシアで活躍したフランス人バレエ・ダンサー兼振付師、舞台監督。代表作は「ラ・バヤデル」、「眠れる森の美女」、「ライモンダ」など。

Creative Neighborhoods
街と住まい

第1回

南永田団地
(横浜市南区)

団地を再読するー
住民によるふるさと化への挑戦



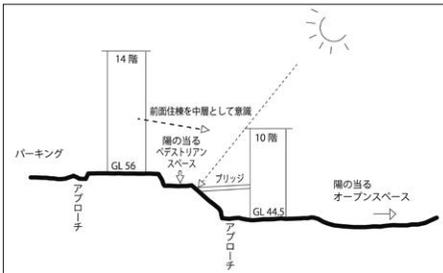
中央広場につながるアプローチ



「つながり祭」は多世代交流の場



地形に沿って配置することで高層住棟の圧迫感が軽減されている



等高線に沿ったアプローチと空中ブリッジの考え方

2年間にわたりお届けした「山本理顕の街は舞臺だ」にかわり、今号からは山本先生が教鞭を執られた横浜国立大学都市科学部建築学科の先生方による連載となります。

藤岡泰寛

横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院・准教授(博士(工学))
1973年生まれ。専門は建築計画・住居計画。99年、京都大学大学院工学研究科環境地球工学専攻修了。横浜国立大学工学部建設学科・助手(05)、同・講師(10)を経て現職。茅ヶ崎市浜見平地区まちづくり協議会委員(15)、横浜市ハリアフリー検討協議会保土ヶ谷区部会長(17)。

国交省の調査によると、いわゆる団地型の住宅は195万戸に達するという。我が国の現在の平均世帯人員はだいたい2.5人だから、単純計算で500万人近い人がいわゆる「団地」で暮らしていることになる。団地は一般的には駅から少し離れた郊外に建てられることが多く、このため初期団地の多くは少子高齢化が進み、若年層の流出、単身高齢者の増加、空き家の増加などの課題に直面している。

横浜市南区に、市浦都市開発建築コンサルタンツ(前・市浦建築設計事務所)が基本計画を担当した南永田団地(UR都市機構)がある。1974年から入居が始まった賃貸・分譲あわせて約2400戸の団地であるが、築40年以上が経過し、住民の約4割が65歳以上の高齢者となり、中心商店街の空き店舗化も進んでいる。1970年代は、平坦地の団地造成がおおよそやり尽くされた時代。残された選択は丘陵地を切り崩すほかなかった。しかし、市浦都市開発建築コンサルタンツでは、この厳しい条件に対してあえて計画地の外に土砂を出さないという方針を定め、最小限の地盤造成と9階・14階建ての高層住棟を組み合わせた新しい団地モデルを構想した。この結果生まれた地形と高層住棟の組み合わせは、住棟の

圧迫感を軽減し、広い空を獲得する効果をもたらした。また、住棟間をつなぐ中間階の空中ブリッジは、敷地の高低差を解消しながら人の流れを中心商店街とその周辺広場に接続し、現在でも十分に通用するハリアフリー経路を生み出している。

今、南永田団地ではこの空間を活かしながら、「つながり祭」とよばれる多世代交流の取り組みと、空き店舗を活用した地域の縁側の居場所づくりが住民を主体としてはじまっている。これは、団地に住み続けたいという声と高齢化への危機感を発端として、区役所や民間コンサルタンツの支援などを受けながら住民有志によって取り組まはじけたものである。活動を継続していくために、NPO法人化などの工夫が模索されている。

南永田団地が持つ豊かな空間が、住民たちの地域愛着、つまりふるさと意識をめぐみ、次世代に向けた主体的活動へと結びついている。それぞれの団地を持つ、独自の魅力を再発見し活かすことは、次世代に向けた「事業」を残すことにつながるのである。重要なことは、この事業が団地住民だけではなく周辺地域のさまざまな主体や世代、とりわけ次世代の主役となる子どもたちや若者が関わるものとして計画されていることである。

かながわ
芸能
●
歳時記

第14回

菅の獅子舞

土俵上で奉納される獅子舞
(川崎市多摩区/子の神社・菅薬師堂/9月)



雄獅子は、雌獅子を白獅子と奪い合う(菅薬師堂境内の土俵)

WEB
+a!

菅の獅子舞は、毎年、薬師如来様の命日である9月12日に近い日曜日に、薬師堂境内の土俵で五穀豊穡や疫病退散を願って奉納されます。文治3年(1187)にこの地の領主であった稲毛三郎重成が薬師堂を建立した時、子どもたちが獅子たわむれの舞いを舞ったのが初めてと伝えられており、県の指定無形民俗文化財に指定されています。

先導役に天狗が一人おり、雄獅子、雌獅子、白獅子の獅子たちが一人立三頭形式で胸につけた太鼓を打ちながら舞い、これに笛とほら貝と唄がつきまします。

祭りの当日、舞手たちは法泉寺から薬師堂まで道行します。白足袋にわらじ履きという旅支度で、舞の筋骨きや唄の中にも旅の道中であることを示す部分があり、「旅獅子」とも呼ばれています。獅子と天狗が腰にさす5色の幣は、安産のお守りとして大変人気があります。

●同時期(8、9月開催)その他の祭り

遠藤のささら踊り(藤沢市遠藤/寶泉寺/8月16日)
双盤念仏(大和市上和田/薬王院/9月7日、8日)

*菅の佐保田家に伝わる古文書「薬師堂縁起」より。

監修…神奈川県民俗芸能保存協会会長 石井一躬

協力…菅獅子舞保存会

写真提供…川崎市教育委員会事務局生涯学習部文化財課

住所:神奈川県川崎市多摩区菅北浦4-16-2 菅薬師堂
交通:JR南武線「稲田堤」駅下車 徒歩10分
京王相模原線「京王稲田堤」駅下車 徒歩10分
日時:2018年 前日9月8日(土)16時~子の神社/当日9月9日(日)13時~菅薬師堂
お問合せ:川崎市教育委員会事務局生涯学習部文化財課 044-200-3305

more! カナガワ

神奈川フィルハーモニー管弦楽団 定期演奏会みなとみらいシリーズ第342回

2018年9月8日(土) 14:00 横浜みなとみらいホール
指揮:小泉和裕
プログラム/交響曲第3番 R.シュトラウス/交響詩「ドン・ファン」、
「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」
全席指定 S 6000円 A 4500円 B 3000円 ユース(25歳以下)当日のみ1000円
神奈川フィル・チケットサービス 045-226-5107 (平日10:00-18:00)
www.kanaphil.or.jp/ @kanagawaphil @instagram.com/kanagawaphil

神奈川近代文学館

企画展「没後10年 石井桃子展 一本を読むよろこび」

2018年7月21日(土)~9月24日(月・振)
開館時間:9:30-17:00 (入館は16:30まで) 休館日:月曜日(9月17、24日は開館)
創作物語「ノちゃん雲に乗る」、「クマのプーさん」、「ピーターラビット」
「ちいさなうさこちゃん」シリーズの翻訳などで戦後の児童文学を牽引してきた石井桃子(1907-2008)の作品と生涯を紹介。
観覧料:一般500円(65歳以上・20歳未満割引有り/中学生以下は無料)
TEL.045-622-6666 www.kanabun.or.jp

神奈川県立近代美術館 葉山

企画展「国立民族学博物館コレクション貝の道」

2018年6月23日(土)~9月2日(日)
開館時間:9:30-17:00 (入館は16:30まで) 休館日:月曜日(7月16日は開館)
観覧料:一般1200円 20歳未満・学生1050円 65歳以上600円
高校生100円 TEL.046-875-2800 www.moma.pref.kanagawa.jp

神奈川県文化課

バイトショウーBEST盤ー

〜マグカル・パフォーミングアーツ・アカデミー本公演2018〜
県では、歌、ダンス、演技の実践的なレッスンをし、舞台芸術にかかる人材を育成するアカデミーを開講しています。このたび、多くの方に舞台芸術の魅力を知っていただくため、アカデミー生によるミュージカルを公演しますので、ぜひお越しください。
2018年8月18日(土)13:00/18:00・19日(日)12:00/17:00
会場:神奈川県立青少年センター 紅葉坂ホール
料金(全席自由):前売2000円 当日2500円 大学生以下割引有り
チケットかながわ 0570-015-415
県文化課紅葉ヶ丘駐在事務所(県立青少年センター内) 045-263-4475

My Roots My Favorites

齋藤友佳理

(東京バレエ団芸術監督)



©Nobuhiko Hikiji

素晴らしい時代のモスクワで出会った、
素晴らしいバレエの恩師たち

素晴らしい時代のモスクワで出会った、

自分のプロフィールの冒頭に決まって書かれる「十代の時にソ連への短期留学を繰り返し」という表現が、以前はとてもしやでした。書かれるたびに「ソ連ではなく、ロシアです!」と言っていたのは、いろんな意味で、ソ連にまつわる温かみのある言葉を聞いたことがなかったから。自由がなく、娯楽もなく、家にテレビもない。皆飢えていて、レストランになんて年に一度行けたらいい——。でも、ペレストロイカを経てロシアという国になって20年以上が経った今、あらためて振り返ると、そんな時代でなければ、あの状況でなければ、あの人たちには出会えなくて、あの素晴らしいバレエ教育を受けることもできなかったと、気づかされるのです。

当時のモスクワのボリショイ劇場は、後世まで継承されるべき作品、優れたダンサーを生んだ黄金時代。その中で、教えても何の得にもならない東洋人の私を受け入れて、ボリショイ劇場で練習させてくださったのがマリナ・セミョーノワ先生です。それはもう大変、大変厳しく、エネルギー！世

界最高峰のバレエ学校にその名が冠される、アグリピナ・ワガノワの一番弟子で、何でもよくご存じの生き字引のような方でした。セミョーノワ先生が退かれてからはエカテリーナ・マクシーモワ先生に教えていただきましたが、生徒をまるでご自分の子どものように育てる、とても温かい方でした。

お金がなくても、東洋人でも、時間が許す限り指導してくれた先生方との絆は、あの時代だったからこそ築くことができたもの。指導者としてそうあるべきと思います。私も東京バレエ団の芸術監督として、そこだけは絶対にぶれずにいきたい、と考えています。

(聞き手・文:加藤智子)

齋藤友佳理 Yukari Saito

6歳よりバレエを始め、ロシアにて名教師に師事。1987年東京バレエ団入団。詩情あふれる踊りと表現力で多くの名演を残す。2009年ロシア国立舞踊大学院バレエマスターおよび教師科を首席で卒業。2015年に東京バレエ団芸術監督に就任。以後、数々のバレエ団初演を成功に導き、高評を博している。紫綬褒章をはじめ受賞歴多数。

*9月1日(土) 神奈川県民ホール 東京バレエ団〈プティパ・ガラ〉(公演詳細はP6特集記事に掲載)

REVIEW

オープンシアター 2018

2018年6月2日(土)～3日(日) 会場: 神奈川県民ホール・KAAT神奈川芸術劇場

(神奈川県立音楽堂は改修休館のため県民ホールで開催)



みんなでのたのしむオペラ「ヘンゼルとグレーテル」 ©増田雄介



音楽堂企画「森の音楽会」 ©青柳聡



地点「山」舞台稽古見学

毎年恒例のオープンシアター2018。神奈川県民ホール大ホールでは、みんなでのたのしむオペラ「ヘンゼルとグレーテル」を上演。オペラ歌手や神奈川フィルの迫力ある演奏に赤い靴ジュニアコーラス、赤い靴スタジオの合唱・ダンスも加わり、子どもから大人まで楽しめる作品となりました。ギャラリーでは203gow展「へんなあみもの おかしなおかしの家」と「みんなで作ろう 森の音楽堂」が開催され、カラフルな編み物作品の展示や、巨大塗り絵や楽器作り、演奏者のすぐそばで音の響きを体感するコンサートなど盛り沢山でした。KAAT神奈川芸術劇場でも白井晃芸術監督とゲストミュージシャンによるトークセッションの他、舞台稽古見学やバックステージツアーなど舞台の裏側に触れられる企画がおこなわれ、劇場を表からも裏からも楽しめる週末となりました。

お客様の声

内容と金額が子育て世代に寄り添っていて創り手の誠実さを感じさせる数少ない企画なので、そのスタンスを変えずにぜひ続けてください。

身近に音楽を体験できる点がたいへん良かった。小さい子どもが親と、また子ども同士が音楽を感じ合う経験ができるのを見て、素晴らしいと思った。

めちゃくちゃおもしろかったです！舞台のつくりかたが見られてお得でした。こういう企画をもっとやってほしいです。

公益財団法人神奈川芸術文化財団をご支援いただいている方々

公益財団法人神奈川芸術文化財団では、賛助会員制度を始めとしたさまざまなご支援の仕組みを通じて、広く皆さまからご寄附・お力添えをいただいております。

公益財団法人神奈川芸術文化財団 賛助会員

法人賛助会員 株式会社アクトエンジニアリング/アサヒビル株式会社/アズビル株式会社/学校法人岩崎学園/株式会社ヴォートル/株式会社エス・シー・アライアンス/株式会社NHKアート株式会社勝烈庵/一般財団法人神奈川県教育福祉振興会/公益財団法人神奈川県結核予防会/神奈川県信用保証協会/株式会社神奈川孔文社/株式会社神奈川保健事業社神谷コーポレーション株式会社/カヤバシステムマシナリー株式会社/川崎北ロータリークラブ/川本工業株式会社/かをり商事株式会社/株式会社共栄社/株式会社クエイエスピー株式会社KSP/株式会社合同通信/コトブキシーティング株式会社/株式会社サンナイオートメーション/株式会社シグマコミュニケーションズ/株式会社ジェイコムイースト横浜テレビ局株式会社清光社/月島機械株式会社/株式会社テレビ神奈川/東工株式会社/ナイス株式会社/株式会社日建設計/日産自動車株式会社/日生商工株式会社/日総ブレイン株式会社株式会社野毛印刷社/パナソニックESエンジニアリング株式会社/平安堂薬局/株式会社ホテル、ニュウグランド/一般社団法人本牧関連産業振興協会/丸茂電機株式会社/三沢電機株式会社森平舞台機構株式会社/ヤマハサウンドシステム株式会社/株式会社有隣堂/株式会社豊商會/株式会社ユニコーン/株式会社横浜アーチスト/横浜新都市センター株式会社横浜信用金庫/弁護士法人横浜/パートナー法律事務所/横浜ビルシステム株式会社/株式会社ワイイーシーソリューションズ(匿名:2社)

永年個人賛助会員 川村恒明 個人賛助会員 味田健一/岩間良孝/岡田博子/黒瀬博晴/小山明枝/嶋田昌子/高岡俊之/橋本尚子/藤原靖也/三宅浩二/渡邊政彦(匿名:4名)

協賛・協力

能舞台協賛 ナイス株式会社

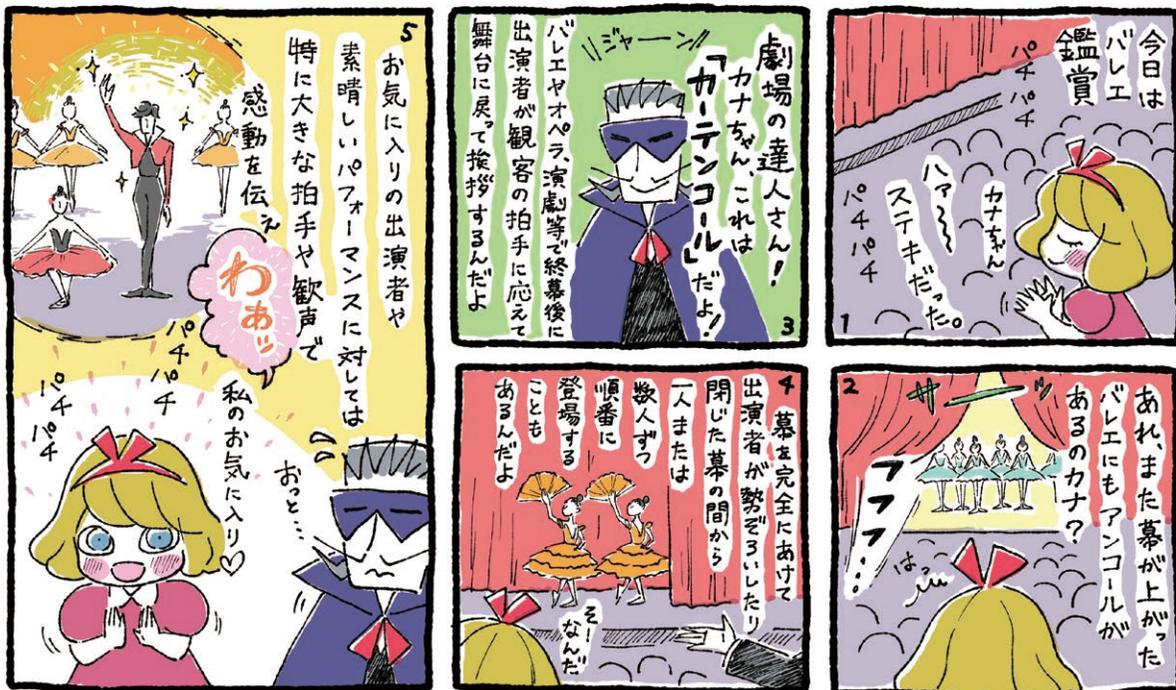
協力 神奈川総合設備株式会社/神奈川トヨタ自動車株式会社/崎陽軒/株式会社東芝/株式会社野毛印刷社/株式会社富士住建/三菱地所株式会社 (敬称略 2018年6月18日現在)

ご寄附・ご協賛・ご協力のお申込み・お問合せ: 本部経営企画課 045-633-3760 www.kanagawa-arts.or.jp/support/

劇場の達人

「カーテンコール」

え・ユキナ



Kame かながわメンバーズ 登録無料!
KANAGAWA members メルマガ無料配信
KANAGAWA members チケットの先行予約が可能
登録はWEBで! www.kanagawa-arts.or.jp/kame

神奈川芸術プレスはここにあります。
神奈川県内の主な公共施設の情報コーナー、首都圏の公共ホール・公立図書館・博物館・書店・銀行等に配架しております。
WEBでも読めます! www.artspress.jp

MAGCUL 神奈川県発、文化発信ポータルサイト
CUL マグカル ドット ネット
MAGCUL.NET
MAGCUL PROJECT HAWAII

ご支援のお願い

公益財団法人
神奈川芸術文化財団

皆様のご支援が、
神奈川の文化と芸術を支える糧となります。

公益財団法人 神奈川芸術文化財団は、神奈川県民ホール、KAAT 神奈川芸術劇場、神奈川県立音楽堂を運営し、音楽・演劇・オペラ・ミュージカル・ダンス・伝統芸能の公演、美術展などの幅広いプログラムをお届けしています。これからも神奈川県内の文化・芸術を振興するとともに、神奈川から文化の発信を行なってまいります。皆様のおたかご支援をよろしくお願い申し上げます。

賛助会員
(法人・個人)

年間を通じて財団の事業全般にご賛助。

個別協賛
(法人・個人)

特定の公演等に対してご協賛。

広告スポンサー

主催公演のチラシや当日プログラム、「神奈川芸術プレス」などへの広告。

団体鑑賞

主催公演のチケットを福利厚生・販売促進等ツールとして。

弊財団への賛助会費(寄附金)には、税制上の優遇措置があります。

詳細・お申込み・お問合せ | 公益財団法人神奈川芸術文化財団 本部経営企画課 〒231-0023 横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル6階
電話: 045 (633) 3760 FAX: 045 (663) 3714 www.kanagawa-arts.or.jp/support/

撮影: 本多康司

編集後記

今号より編集担当となりました。夏から秋にかけては、各館メイン事業が目白押しです。会場近辺の散策にも良い時期ですので皆さまぜひお越しください。(お龜山本理頭先生の「街は舞台だ」が、「Creative Neighborhoods」へとリニューアル。どうぞお楽しみください。(倉)